



いま、なぜ「対話形式」のアート鑑賞が大切なのでしょう？

今の学習指導要領により実施されている小学校や中学校の図画工作・美術科の授業のなかでは、美術館との連携、また児童・生徒一人ひとりの能動的な鑑賞、つまり感じたこと、思ったことを言葉にして表現することが、「言語活動の充実」ともあわせて重視されるようになってきました。

アートとの出会いは、児童・生徒に新たな「発見」や「感動体験」をもたらす、言葉を発する最良の契機ともなりうるものです。そして見るという視覚体験を言葉にし話し合う過程のなかで、児童・生徒は互いが異なる感性や個性を持つことを実感し、さらに認め合っていくことにつながるでしょう。



美術館には、どんな鑑賞プログラムがあるのですか？

A. 対話形式の鑑賞（実施場所：企画展示室、常設展示室）

クラス単位にわかれ、学芸員やボランティアが先生と連携しながら、児童・生徒の発言を引き出すことで数点の作品を鑑賞していきます。児童が「見る」「考える」「話す」「聞く」という鑑賞の基本を体験します。また対話の中では、知識を教えるというより、参加者の発見と発言によって鑑賞を進めるため、初めて作品と出会う児童・生徒でも、作品への興味を持ちやすくさせるほか、「ことばの教育」にも役立ちます。



- 対象：小学生・中学生
- 所要時間：30分～60分

参加者の経験や目的に合わせて作品や方法を決めるので、事前に担当者が電話等で先生と打合せをします。

福山市内小学校4年生対象事業『10才の君へ ようこそ美術館プロジェクト』につきましては、このスクール・プログラムとは異なります。学校教育部学びづくり課の事業となります。

鑑賞の流れの例 あいさつ → 対話形式の鑑賞(30分) → 集合してまとめ

B. 施設見学（実施場所：美術館内）

美術館の展示会についてのごく短時間の説明や、施設(バックヤード等)のご案内をします。

- 対象：小学生・中学生
- 所要時間：30分

C. モニュメント・マップ（実施場所：野外）

ふくやま美術館モニュメント・マップ『怪盗バツラの挑戦状!』を使います。

美術館周辺の18のモニュメントを回り、シールを貼り、クイズに答えていく体験型の鑑賞プログラムです。

- 対象：小学生・中学生
- 所要時間：30分～60分

鑑賞の流れの例 美術館前に集合・マップの配付と注意(5分) → 児童・生徒が各々野外モニュメントをまわる(55分) → 集合



いつ美術館に行くのがいいのでしょうか？

案①

季節ごとに、テーマの違う様々な『特別展』があります。目的に合わせてお選びください。

2020年度 特別展

※特別展・所蔵品展の会期につきましては、新型コロナウイルス感染拡大により、急遽変更をさせていただく場合もあります。チラシやふくやま美術館ホームページ、市広報などで最新情報をチェックしてください。

期 間	内 容
春 4月11日(土) ▼ 6月28日(日)	刊行25周年記念 にじいろの さかな 原画展 —マーカス・フィスターの世界— 主人公「にじろお」と海に住む仲間たちとの交流を通して、やさしさや思いやりの大切さなど、さまざまなメッセージを送り出している絵本『にじいろのさかな』。その作者であるマーカス・フィスターの絵本原画展がふくやま美術館で開催されます。にじみをきかせた美しい絵本原画の世界をお楽しみください。
夏 7月11日(土) ▼ 8月30日(日)	佐川美術館コレクション 生誕90年 平山郁夫が描く 世界遺産展 日本画壇を代表する画家、平山郁夫(1930-2009)は、仏教伝来とシルクロードを生涯のテーマとして描くとともに、世界各国の文化財を国際的な協力のもとで保護するための平和貢献活動をライフワークとしていました。本展は、「アンコール遺跡」「南京城壁」「比叡山延暦寺」など、平山が視察や調査で訪れた際に取材し、描いた作品群の中から、世界遺産をモチーフにした作品約70点を紹介するものです。
冬 12月19日(土) 2021年 ▼ 2月21日(日)	クールベと海 自然を理想化する既存の芸術を否定し、「あるがまま」の社会風俗や風景を描き、絵画に大きな変革を起こした画家ギュスターヴ・クールベ(1819-1877)。本展では、クールベが後に繰り返し描いた「海の風景画」に着目し、ターナーやミレー、モネといった同時代の海景画とともに展覧することにより、画家の独自性を探ります。

案②

所蔵品展もご活用ください。

所蔵品展では、開館30周年を記念して収蔵されたマルク・シャガールの《青い花瓶》や、日本近代を代表する画家 岸田劉生が自分の愛娘を描いた《麗子十六歳之像》、あるいはピカソやイタリア未来派のジャコモ・バッラの作品、そしてソーニャ・ドローネーの色彩豊かな作品を年間を通してご覧いただけます。

児童・生徒が成長する過程で、繰り返し見ることでできる美術館の所蔵品は、美術鑑賞教育に好適といえましょう。



2020年度 所蔵品展

期 間	内 容
《春季》 4月9日(木)～6月28日(日)	珠玉の名品 特別展 ふくやま書道美術館特別展「生誕120年 桑田篤舟展」連携企画 所蔵 桑田家コレクション～古筆の美 当館の核となる岸田劉生などの近現代美術作品をはじめ、福山市名誉市民でかな書家の桑田篤舟氏のご遺族より、2020年に寄贈を受けた古筆コレクションを展覧します。
《夏季》 7月1日(水)～9月13日(日)	ふくやま美術館デザインコレクション 画家や建築家として活躍しつつ、デザインの分野でも優れた実績を残しているジャコモ・バッラや武田五一の作品を中心に、ふくやま美術館のデザインコレクションを紹介します。
《秋季》 9月16日(水)～11月29日(日)	かわいい？作品たち 本来的な意味を超え、現代日本文化を象徴する美的判断として多用される「かわいい」。本展では、「かわいい」作品たちを通して、この不可解な言葉の深淵を探ります。
《冬季》 12月9日(水)～2021年4月4日(日)	福山の工芸 —門田篁玉・祐一父子の竹工芸を中心に— 福山市駅家町出身の竹工芸家、門田篁玉(1916-)と、その子、門田祐一(1942-)の作品を中心として、金工、木工、陶芸など、福山ゆかりの工芸を紹介します。

